

平成20年3月28日

厚生労働省 医政局 医事課
試験免許室長 天童 厚則 様

社団法人日本作業療法士協会
会長 杉原 素



第43回作業療法士国家試験問題の出題傾向について（意見）

平成20年3月2日に実施された第43回理学療法士作業療法士国家試験問題において、従来の出題傾向とは著しく異なる状況が認められたことから、作業療法専門問題及び共通問題について別紙のとおり意見を申し述べます。

なお、第43回理学療法士作業療法士国家試験問題については、作業療法士養成施設に協力を依頼し、解答（案）を取りまとめましたので、その概要を参考資料として添付いたします。

1. 解答（案）のバラツキについて

各養成施設から提示された解答（案）を集約し、以下にその概要を示し、意見を申し述べる。なお、本調査は調査期間を平成20年3月4日～3月9日として行い、作業療法専門問題94校、共通問題89校から返答が得られた。

結果の概要：

平成20年3月13日付で厚生労働省医政局医事課に提出した「第43回作業療法士国家試験問題について（意見）」で指摘した「国家試験として適切でないと思われる問題」12題については概ね解答（案）のバラツキが認められた。また、これらの問題以外にも解答（案）にバラツキが認められる問題が散見された。

回答率（全解答に対して最も多くの解答が得られた選択肢の比率）が80%を下回った問題は、専門問題では問題6、10、13、22、28、33、36、37、43、45、55、63、69、73、79の15題（うち「適切でないと思われる」と指摘した問題は6、10、33、37、43、45、55、63の8題すべて）であり、最も低い回答率は問題37の39%であった。また、共通問題では問題35、53、62、76の4題で回答率が80%を下回り、うち最も低い回答率は問題35の39%であった。

さらに今回の作業療法士国家試験では、二択形式の問題が専門問題で42題、共通問題で33題出題されたが、専門問題においては、回答率が80%を下回った15題のうち11題（73%）が二択形式の問題であった。集計結果を表1、表2に示した。

意見：

作業療法士国家試験においては、作業療法の臨床及び教育の場で定説となっている標準的知識を根拠として、明快に解を導き出せる問題が出題されるよう是正をお願いする。

2. 作業療法専門問題の出題領域について

作業療法専門問題について、理学療法士・作業療法士国家試験出題基準（以下「出題基準」）に基づき問題の分類を行った結果、

- ① 作業療法専門問題に、本来共通問題にあるべき問題が3題（問題4、5、16）認められた。
- ② 作業療法専門問題に、原則理学療法の専門であり「出題基準」の作業療法専門分野に該当するとはいえない問題が2題（問題73、74）認められた。

これらの結果から、①に該当する問題については共通問題での出題を、②に該当する問題については専門問題には含まれないよう是正をお願いする。

3. 作業療法専門問題における職業関連活動に関する問題について

職業関連活動は「出題基準」の「作業療法評価学」中項目、「作業治療学」各障害領域の小項目、「地域作業療法学」中項目に位置づけられているにもかかわらず、この領域の問題が少ない傾向にあったので是正をお願いする。

4. 共通問題の出題領域について

共通問題については、「出題基準」の「Ⅰ人体の構造と機能及び心身の発達」における大項目分類に対して、表3に示したように、解剖学・生理学・運動学が中心の出題となっており、人間発達学の割合が極端に少ない傾向があった。「人体の構造・機能」と「心身の発達」の出題数のバランスについては是正をお願いする。

また、「Ⅱ疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」の中心的な大項目である「臨床医学大要」の下位項目に対応する出題領域の割合を表4に示したが、小児科学の問題が0%となっているほか、老年医学からの出題が2.9%（1題）と少なく、高齢社会の時代背景を踏まえ、是正をお願いする。

5. 疾患のみを問う問題の妥当性について

専門問題の中に、共通問題と同様、疾患に関する知識だけを単独で問う問題が18題（問題15、16、26、34、50、51、54、56、59、60、64、66、67、77、79、81、86、91）認められた。専門問題として出題する場合は、少なくとも問題27、29、35のように作業療法場面を想定した問題形式で出題されるよう是正をお願いする。

6. その他

作業療法の専門問題に「運動療法」という用語を用いた問題（問題68）があり、またその問題内容が理学療法の専門問題と考えられるため、「作業療法」としての問題の位置づけについては是正をお願いする。

以上